

学校自己評価書

令和3年度

令和4年2月

学校法人長嶋学園

専門学校静岡医療秘書学院

学校評価委員会

委員長	紀平 幸一 (学院長)
副委員長	増田 正史 (法人理事長)
	小林 利彦 (副学院長)
委員	金原 保雄 (法人事務長)
	大石 誠 (教頭)
	高市 篤哉 (教務課長)
	野々村大介 (学生課長)

目 次

学校評価について	P 1
I 学校の現況	P 2
II 評価の基本方針	P 3
III 教育目標・計画	P 3
IV 評価項目の達成及び取組状況	
1. 教育理念・目標	P 4
2. 学校運営	P 5
3. 教育活動	
①目標の設定等	P 6
②教育方法・評価等	P 7
③資格試験	P 8
④教職員	P 9
4. 学習成果	P 10
5. 学生支援	P 11
6. 教育環境	P 12
7. 学生の受入れ募集	P 13
8. 財務	P 14
9. 法令等の遵守	P 15
V 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	P 16

学校評価について

教職員による自己評価

評価項目

「専修学校における学校評価ガイドライン」を基に項目を設定

評価方法

教職員が学校の目標・計画等に沿った取組の達成状況や、それらの取組が適切に行われたかについて評価・公表を行い、学校運営の改善等に活用する。

各評価項目を「専修学校における学校評価ガイドライン」に準じて4段階で評価し、その評価点の平均値を算出して評価項目の評価点とする

学生による自己評価

評価項目

授業内容に対する評価を10項目にわけて、無記名にてアンケート調査を実施

評価方法

各評価項目を4段階で評価し、その評価点の平均値を算出して評価項目の評価点とする

学校関係者評価

学校関係者評価委員が学校の教育活動や教育環境など自己評価報告書を基に評価する

I 学校の現況

1. 学校名 専門学校静岡医療秘書学院

2. 所在地 〒422-8042 静岡市駿河区石田1丁目20番11号

3. 沿革

1968（昭和43）年 静岡県医師会副看護学院（通信制）として開校

1976（昭和51）年 静岡県医師会MS学院と改名（MS…Medical Secretary）

1984（昭和59）年 静岡県医師会医療秘書学院と改名（高卒以上一般公募開始）

1991（平成3）年 本学院の運営を学校法人静岡女子商業学園が受託

1993（平成5）年 専門学校静岡医療秘書学院として開校

2003（平成15）年 法人名を長嶋学園に変更

4. 学科の構成

課程名 商業実務専門課程

学科名 医療秘書科

修業年限 2年 全日制

5. 学生数及び教職員数（令和4年2月1日現在）

学生数 61名

教職員数 専任3名、講師18名

事務職員 1名

6. 施設の概要

1階

職員室兼事務室、学院長室、多目的教室（101教室）、保健室、ロビー

2階

普通教室、情報処理室、学生ホール（図書コーナー）、教材準備室

Ⅱ 学校の基本方針

教育理念

日本医師会認定医療秘書養成機関に相応しい、専門的な医療事務の知識と最新の情報処理技能を兼ね備え、全国の医師が本当に求める医療秘書を養成する。

また、医療業務に携わるために必要な知識と技能を習得するだけでなく、人として義を重んじ礼を尽くす人間形成に基づき、医療現場において病める人たちに優しく接し、人の悩みのわかる人間愛に根ざした奉仕の精神を兼ね備えた人材を育成する。

Ⅲ 教育目標・計画

1. 日本医師会認定医療秘書養成機関として、良好な医療体制を構成するチーム医療の一員として医療機関で重要な役割を担う医療秘書を育成する。
2. 教育環境に常に気をくばり対応するとともに、社会・医療関係者の意見をより多く取り入れる。
3. 学院生便覧(学則・細則・教育課程・教務規程・学生の心得等のさまざまな規程)を理解させ教育を行う。
4. 教職員は、学生の伴奏者であることを自覚し、学生個々の将来を見据えた教育を行う。

Ⅲ 教育目標・計画

1. 教育理念・目的・人材育成像

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	3. 5
学校における職業教育の特色は定められているか	4. 0
社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3. 3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・学生・関係業界・保護者等に周知されているか	3. 0
各学科の教育目標、育成人材像は、学校に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3. 8

【特記事項】

- ◆ 理念等は P3 記載。
- ◆ 医療機関において卒業後即戦力となる人材を育てるために現職医師等の講師陣による。専門的な授業を行っている。

【課題】

- ◆ コミュニケーションを養うための方策を模索する。
- ◆ 卒業生に、職場で必要な人材像の情報を入手する。
- ◆ 進路先の現場から要望等を聞くことができるようにしたい。

【改善策】

- ◆ 卒業生へのアンケート調査を実施。
- ◆ コミュニケーション力を向上させるためのセミナーの実施。
- ◆ 進路先へのアンケートを実施する。

2. 学校運営

評 価 項 目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	3. 8
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3. 3
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3. 5
人事、給与に関する規程等は整備されているか	3. 0
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	3. 5
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3. 3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3. 5
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3. 5

【特記事項】

- ◆ 事業計画については運営委員会の資料に記載。
- ◆ 情報公開についてはHPで公開している。
- ◆ NASによる共有フォルダを利用することのより、教職員相互の情報を共有でき、仕事の効率化を図っている。

【課題】

- ◆ 以前よりは各高校に周知されてきているが、まだ本学院の存在が県内全校に知れ渡っているとは思えない。

【改善策】

- ◆ 広報活動により力を入れる。

3. 教育活動 ①目標の設定等

評 価 項 目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4. 0
教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての終業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3. 8

【特記事項】

- ◆ 教育理念については P3 記載。
- ◆ 日本医師会の認定医療秘書の推奨カリキュラムに準拠している。

【課題】

- ◆ 卒業後においても、さらに自らのスキルアップを志す心を育てる。

【改善策】

- ◆ 各授業中においても、自己向上心を育てるための話しを織り交ぜていく。

3. 教育活動 ②教育方法・評価等

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
カリキュラムは体系的に編成されているか	4. 0
キャリア教育・実施的な職業教育の視点にたったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3. 5
関連分野の企業・関係施設や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3. 3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置付けられているか	3. 5
授業評価の実施・評価体制はあるか	4. 0
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れられているか	3. 5
成績評価・単位認定、進級・卒業の基準は明確になっているか	3. 5

【特記事項】

- ◆ カリキュラムは、基本的には日本医師会認定医療秘書養成のための制定カリキュラムに準じている。
- ◆ 医療機関のニーズを踏まえ、日本医師会制定カリキュラムに、看護概説・病院関連事務・礼儀作法等の学校設定科目を加えている。

【課題】

- ◆ 机上学習評価のみに留まらず、人間育成に努め、特にコミュニケーション力を身に付けるための授業展開が必要。
- ◆ 本年度はコロナ等により、病院見学・実習先を決定することが難しかった。

【改善策】

- ◆ 特に実習先を確保するために、各病医院・郡市医師会へのPR。

3. 教育活動

③資格試験

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか	3. 8

【特記事項】

- ◆ 医療保険請求事務実技試験について、31名全員合格。受験した14校のうちトップの合格率となった。
- ◆ 日本医師会医療秘書認定試験について、31名受験30名合格。
- ◆ 日本医師会医療秘書認定に必要な資格が取得できるよう、カリキュラムが組まれている
- ◆ 資格取得の奨励のため苦手分野克服、答案練習等の時間を確保するため、課題研究の授業をカリキュラムに導入している。

【課題】

- ◆ 在学中での資格取得は、ほぼ達成されているが、在学中のみならず、卒業後もより高い資格（医師事務作業補助者・診療情報管理士等）を目指せる高い意欲を持たせたい
- ◆ 医療秘書学院として秘書養成を高める為、病院が求める人材育成を目的とし、より多くの資格取得にチャレンジする。

【改善策】

- ◆ 医療秘書技能試験（医療秘書教育全国協議会）、医事コンピュータ技能検定試験（医療秘書教育全国協議会）、接客サービス検定（実務技能検定協会）などの資格を追加し、即戦力として知識と技能の向上を目指す。

3. 教育活動

④教職員

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
人材取得目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3. 0
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・建武含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3. 3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3. 0
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3. 0

【特記事項】

- ◆ 医療・保健・福祉基礎の専門教科は、それぞれの専門分野の現役ドクターを講師として招いているため、変化する医療界の情報も得ることが出来る。
- ◆ 医療情報処理に関する知識・技能を持った教員を有している。

【課題】

- ◆ コロナ禍において、教員向けセミナー等の実施・参加が難しい。
- ◆ 保険事務の専門分野の教員がいない。
- ◆ 教員不足で、ほぼ全ての業務をこなしている為、負担が大きい。
- ◆ 医療事務を取得するには、最低でも2年は掛かる。教職員の新体制の準備をする必要がある。

【改善策】

- ◆ セミナーが開催し始めたら、積極的に参加し情報を共有する。
- ◆ 専門分野・知識を持った教員を補充する。
- ◆ 専門学校の特任は難しいが、定期的に研修などを開き、新体制となる教職員の指導にあたる。

4. 学習成果

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
就職率の向上が図られているか	3. 7
資格取得率の向上が図られているか	4. 0
退学率の低減が図られているか	4. 0
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3. 3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3. 3

【特記事項】

- ◆ 例年、就職希望者の就職決定率は、ほぼ全員と高い。またほとんどが関連分野へ就職している。
- ◆ 専門課程を学ぶ学生として、何を目指しているのか、常に学ぶ目的を意識させている。
- ◆ 資格取得に対する補講を実施している。
- ◆ 目標である日本医師会医療秘書認定試験、全医秘協医療保険請求事務実技試験の合格率は高レベルをキープしている。
- ◆ 新卒者の勤務先へ、挨拶回りで訪問しながら、勤務状況を伺っている。
- ◆ 2年生は、意欲的であり16名が皆勤した。

【課題】

- ◆ 実際に実務に就いてから感じた「学生時代に身に付けておくべきだった事」を調査し、学習指導の参考にした方が良い。
- ◆ 何の為に検定を受けるのか理解せず、ただ受けている学生が多い。
- ◆ 卒業した先輩方が、何処に就職したのかと学生をわかっていない。

【改善策】

- ◆ 卒業生対象に簡単なアンケート調査を行う。
- ◆ もう一度学生に資格・就職についてなど自覚をさせる。
- ◆ 卒業生就職先一覧などを作成し、学生の将来のきっかけを作る。

5. 学生支援

評 価 項 目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4. 0
学生相談に関する体制は整備されているか	3. 8
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4. 0
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4. 0
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3. 0
学生の生活環境への支援は行われているか	3. 3
保護者と適切に連携しているか	3. 3
卒業生への支援体制はあるか	3. 8
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3. 0
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3. 0
関連分野における業界との連携による卒業後の再教育プログラム等を行っているか	2. 5

【特記事項】

- ◆ 昨年度から高等教育の修学支援新制度の対象機関として認められ、条件を満たす学生は給付奨学金と入学金・授業料減免を利用できるようになった。
- ◆ 就職には静岡県医師会報のPR効果が大きい。
- ◆ 進路決定までに個別面談を重ね、各自の希望に合わせた進路先を紹介している。
- ◆ 卒業生専用のLINEアカウントを作成し、常に新しい求人情報を配信している。

【課題】

- ◆ 求人の件数は複数あるにも関わらず、進路に迷い卒業時まで決めようとしないう学生がいる。
- ◆ コミュニケーション能力が足りない。
- ◆ 身だしなみなどで就職が難航した。
- ◆ 遅刻・欠席が多い学生がいるが、保護者は先に勤務していて知らないことが多い。

【改善策】

- ◆ 遅刻・欠席に気を配り、変化が生じたら素早く保護者に連絡し、早期解決に努める。
- ◆ 2年時の初期のうちに進路に対する明確な目標を学生に定めさせる。
- ◆ 会話と対話の違いを理解させる。
- ◆ 清潔感のある髪型、化粧、服装なども指導していく。
- ◆ 遅刻・欠席が多い学生の保護者に連絡を取り、保護者と教員の間で情報交換を行う。

6. 教育環境

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3. 3
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	3. 0
防災に対する体制は整備されているか	3. 3

【特記事項】

- ◆ 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、2年生の海外修学旅行は県内旅行に変更、1年生は春秋の遠足を実施し、3月に病院見学を予定している。
- ◆ 2年生の病医院実習は全員無事に終えることができた。
- ◆ 防災対策として、水、カロリーメイト、携帯トイレ、ウェットティッシュを備蓄している。

【課題】

- ◆ コロナ禍により海外研修旅行ができていない。
- ◆ 授業に活かせる通信環境を構築したい。
- ◆ 老朽化により、教室の机と椅子が破損していたり汚れが落ちない状態になっている。
- ◆ 授業中、太陽の光でホワイトボードが見え辛い。
- ◆ 換気の為、窓を開けているが、カーテンが舞って邪魔になり窓を閉めてしまい換気が悪くなる。

【改善策】

- ◆ コロナ感染拡大が収束すれば海外研修旅行を復活させる。
- ◆ Wi-Fi の設置を検討中。
- ◆ 新しい机と椅子の購入により、さらに勉強意欲が高くなるだろう。
- ◆ 休み時間など、教員を中心に換気に務める。

7. 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか	3. 5
学生募集活動は、適正に行われているか	3. 3
学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	3. 8
学生納付金は妥当なものとなっているか	3. 8

【特記事項】

- ◆ 真実性・明瞭性・公平性・法令遵守等十分配慮し、入学希望者に判断材料を提供している。
- ◆ パンフレットは3年に1度のリニューアルを目標にしている。
- ◆ HPは最新情報に更新し、学校の良さが十分伝わるように取り組んでいる。
- ◆ 本校の特長を記載したチラシを配付の為、高等学校に訪問したり、オープンキャンパス開催日や入学試験期日等を定期的にFAXにて情報提供している。

【課題】

- ◆ HP更新に費やす時間がなかなか取りにくい。
- ◆ 高等学校主催の進路ガイダンスに参加できれば学校情報を提供できる。
- ◆ 入学生に新規の高校の出身者が増えてきているが、今後も増加させていきたい。
- ◆ 今の高校生はSNSで応報を得ることがほとんどである。リアルタイムで情報を配信し、今の専門学校を知ってもらう必要がある。

【改善策】

- ◆ 学校訪問を頻繁に行い、本校を理解していただくと共に、高等学校主催の進路ガイダンス等への招待をお願いする。
- ◆ SNSを使用する。ただし、アンチコメントやウイルスが怖い為、教職員が中心となって行うが学生も一緒になって作成してもらう。

8. 財務

評 価 項 目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2. 5
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3. 5
財務について会計監査が適正に行われているか	4. 0
財務情報公開の体制準備はできているか	3. 5

【特記事項】

- ◆ 財務情報は HP で公開している。

【課題】

- ◆ 財務が安定するには、安定した学生募集が不可欠。

【改善策】

- ◆ 前項 7 に関連する。

9. 法令等の遵守

評 価 項 目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3. 8
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4. 0
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3. 5
自己評価結果を公開しているか	4. 0

【特記事項】

- ◆ 自己評価結果は HP で公開している。

【課題】

- ◆ 今回の入学願書提出にあたり、家族情報を記載したくないとの要望があった。成人が 18 歳になることもあり、今後もその様な要望が増える可能性がある。

【改善策】

- ◆ 個人情報保護法を考慮すると、入学願書の様式も検討しなくてはならないだろう。

V 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

より高度な医療秘書を目指す為、2年間で自分は成長したという実感や気持ち良く学べたという充実感に加え、卒業後もさらに上の資格取得を目指す向上心を持たせたい。

近年、授業へ取り組む姿勢や資格取得への意欲が向上している。コロナ禍において、医療従事者の役割・苦勞などを実感し、現場で対応できる能力・技術の修得が不可欠だと感じたからではないだろうか。その結果、遅刻・欠席も全体的には減ってきており、学校生活もより充実しているように見受けられる。

環境整備については、不具合のあった窓を修理したり、駐輪場・駐車場・玄関前の土間の補修舗装を行ったが、教室内の机や椅子が老朽化で、汚れや破損が目立っている。学生の意識向上の為にも、早急に入替購入の必要性を感じる。

学生募集については、コロナの影響で医療関係の職種を遠ざけている様子（保護者に反対される例もある）が伺える為苦戦している。

教職員としては、全ての業務に携わらないと業務が遂行していかないので時間的余裕が無く、人材の確保や人員増加の検討も必要と考える。